原城跡に残る石垣
一揆当時の原城には石垣や城門等の防御施設が存在していたが、一揆後にすべて破壊され、今は石垣の一部が残っている

密かな信仰の証……❶原城跡（南島原市）

長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産を訪ねて

二世紀を越える密かな信仰の始まり

1637年に約2万人を超えるキリシタンが蜂（ほう）起した島原・天草一揆の際、一揆勢が4ヶ月にわたり立てこもった場所。最後は幕府軍の総攻撃で一揆勢ほぼ全員が原城で命を落としました。その後、幕府により、建造物、石垣などは徹底的に破壊されました。一揆の後、幕府は宣教師の潜入の恐れがあるポルトガル船の来港を禁止。250年続く密かな信仰が始まりました。

近年の発掘調査では、多数の人骨などと共に十字架やメダイなどが出土しています。その中でも印象的なのは不格好な形をした白い十字架。材質は鉄砲の銃弾と同じ鉛。重さも銃弾1個とほぼ同じことから、銃弾を溶かして手作りしたものと考えられています。長引くろう城生活の中、信仰を心のよりどころとしたキリシタンの祈りの声が聞こえてきそうです。

原城跡から出土した十字架と銃弾
（有馬キリシタン遺産記念館所蔵（南島原市））
原城跡の発掘調査において十字架36点が出土（平成26年3月31日現在）。発掘時には人骨に寄り添うように出土した例もあり、キリシタンが最期を迎える瞬間まで身につけていたことがうかがえる

問合せ　県の世界遺産登録推進課　☎095-894-3171　長崎から世界遺産を　検索

［発行］長崎県広報課 〒850-8570（住所不要）
TEL.095-824-1111　FAX.095-828-7665
知事の会見や県政番組は よかテレ　検索　よかテレ nagasaki yokayoka tv